

第13回 行政改革推進会議 議事要旨

【開催日時】

平成26年11月6日(木) 17:30~18:00

【場所】

官邸4階大会議室

【出席者】

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議長代理	麻生 太郎	副総理
副議長	有村 治子	行政改革担当大臣
	高市 早苗	総務大臣
構成員	秋池 玲子	ボストンコンサルティンググループシニア・パートナー & マネージング・ディレクター
	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道株式会社相談役
	加藤 淳子	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	小林 栄三	伊藤忠商事株式会社取締役会長
	田中 弥生	独立行政法人大学評価・学位授与機構教授
	土居 丈朗	慶應義塾大学経済学部教授
	畠中 誠二郎	中央大学総合政策学部教授
	森田 朗	国立社会保障・人口問題研究所長

【議事次第】

- 1 開会
- 2 議事
 行政事業レビューの秋以降の進め方について
- 3 議長挨拶
- 4 閉会

【配付資料】

- 資料1 秋の行政事業レビューの進め方について（行政改革推進会議有識者議員提言）
- 資料2 行政事業レビューシート最終公表後の点検について（案）
- 資料3 平成25年における「秋のレビュー」等の指摘事項に対する各府省の対応状況

【議事の経過】

有村行政改革担当大臣の司会により、議事が進行した。初めに高市総務大臣から、以下の内容のあいさつがあった。

（高市総務大臣）

- ・ 安倍内閣においては、行政の徹底的な効率化に不断に取り組んでおり、総務省としても、これを支えて必要な行政改革を推進している。
- ・ 具体的には、「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」(平成25年12月閣議決定)に基づき、独立行政法人の運用事項の改善に向けた取組を実施。さらに、個別の法人の統廃合について、閣議決定の趣旨に沿った適切なものであるか、審査を行っている。
- ・ また、行政事業レビューに関し、昨年度から、政策評価と行政事業レビューに用いるそれぞれの資料のリンケージを明らかにして連携を図るとともに、今年度以降、各府省が足並みをそろえて、政策評価における標語の標準化や評価の重点化を図ることとした。今後とも政策評価の活用による行政の改善を後押しするとともに、自ら行う調査によって個々の施策の問題点を把握し、改善を勧告する活動も展開していきたい。
- ・ そのほか、ICTの活用による業務処理の見直し、行政のオープン化・双方向化など、業務改革の推進にも取り組んでいる。本年の推進状況については年末に取りまとめ、御報告したい。

議事に入り、秋の行政事業レビューの進め方について、資料1に沿って土居議員から、資料2に沿って行政改革推進本部事務局から、それぞれ説明を行った。併せて、平成25年における「秋のレビュー」等の指摘事項に対する各府省の対応状況について事務局より報告を行った。その後、議論に移った。

（各議員の主な発言）

- ・ 無駄を省くのは大事だが、伸ばすべきものは伸ばすことも大事。歳出削減にきちんと取り組んでいるということを国民に対していろいろな場でアピールして行ってほしい。また、悪い悪いと言うだけではだめで、例えば優れた取組をした職員への表彰制度などインセンティブを与えることを考えるべき。
- ・ 内閣の重要施策の検証は大事。複数施策を統合できないか等の観点で検証すべき。基金については、返すということも大事であるが、あまりそこを突き詰めると使ってしまうなければならないという方向に進んでしまいがちになるので注意が必要。規律が失われることが決してあってはならないが、補正予算には予算の硬直化を防ぐ機能がある点には留意が必要。
- ・ 内閣の重要施策については、施策と個々の事業の関係にも目を配りながら、その必要性、有効性をきっちりと検証する必要がある。また、「伸ばすべきもの、切るべきもの」

のメリハリも重要。

- ・ P D C Aサイクルをきちんと回し、資源配分のメリハリをつけて欲しい。この施策がこのような効果を生むといった因果関係やメカニズムをクリアすることが重要。
- ・ 「府省横断型のテーマ」を取り上げることは勇気ある判断。「地方の創生・活性化に関連する事業」に関して、縦割り行政をなくすため、各省庁で類似した事業をまとめる方針も示されたと承知しており、この観点からもしっかり見ていただきたい。
- ・ 基金は、特に補正予算における措置額が大きく、また返納額も大きい。補正予算は短期間で編成されるため、基金に関する立てつけや計画が甘くなっていると思われ、財政当局との連携が重要。
- ・ 来年度にプライマリーバランス赤字半減の目標もあるところ、「地方創生」や「女性の活躍」に加えて、医療・介護、東京オリンピック関係予算など、重要なテーマが選ばれている。きめ細かい議論が必要。

関連して、麻生副総理から、以下のとおり発言があった。

（麻生副総理）

- ・ 社会保障と税の一体改革を進めている中、行政改革は、政府に対する国民の信頼を得るために極めて重要な取組であると考えている。
- ・ 今回の「秋のレビュー」は、こうした取組の一環として、非常に重要なものであり、積極的な御議論をいただき、予算の重点化・効率化につながるようなとりまとめを行っていただきたい。
- ・ 財務省としても、今後とりまとめられる御指摘を予算やその執行段階においても確実に反映させるよう、関係省庁と連携・徹底してまいりたい。

安倍内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

（安倍内閣総理大臣）

- ・ 安倍内閣においては、行政改革推進会議の議員の皆様のご協力をいただき、行政改革を進め、無駄の撲滅への不断の努力を進めており、昨年、この会議の下で、各府省における行政事業レビューの取組を厳しくチェックをし、そして事業の更なる改善を図るため、外部有識者の参加を得て「秋のレビュー」を実施したところ。

- ・ 本年の「秋のレビュー」では、まず、無駄な資金の洗い出しなど基金の点検を徹底的に行うとともに、地方創生や女性の活躍といった重要施策も含め、聖域を設けずに取り組んでまいりたい。
- ・ 「秋のレビュー」の結果は、個々の事業の改善につなげるとともに、年末の予算編成にもしっかりと反映をし、その成果を国民の皆様にもきちんとして示したい。
- ・ こうした取組みを通じて、引き続き無駄の撲滅を徹底していく決意であるので、よろしくお願ひしたい。

(以上)

(文責：行政改革推進本部事務局 速報のため事後修正の可能性あり)